

Title	E. FORUM: 5年間の取り組み
Author(s)	西岡, 加名恵
Citation	子どもの生命性と有能性を育てる教育・研究をめざして (2012), 活動報告書(2007-2011年度): 82-83
Issue Date	2012-03-30
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2433/179720">http://hdl.handle.net/2433/179720</a>
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

## E. FORUM 5年間の取り組み

### はじめに

現在の日本においては、学校や地域の教育改革を推進するスクールリーダー（教育委員会指導主事、学校管理職・研究主任、地域の教育サークルのリーダーなど）の育成・力量向上が急務となっている。そこで、京都大学大学院教育学研究科では、2006年度、全国の希望者に研修機会を提供するE. FORUM（教育研究開発フォーラム）を設立した。

E. FORUMでは、毎年、8月と3月に「全国スクールリーダー育成研修」を提供してきた（2009年度までは12月にも提供）。また、「カリキュラム設計データベース（CDDDB）」を開設するなどにより、スクールリーダーの全国的なネットワークの構築をめざしている。

ここでは、2007年度以降のE. FORUMの取り組みについて、その特長に焦点をあてて紹介する。

### 1. 多彩な研修内容の提供と、実践への活用を促す仕組み

まず、E. FORUM「全国スクールリーダー育成研修」の研修内容について、説明しよう。E. FORUMでは、講義・講演、ワークショップ、シンポジウムなど、様々な形式を組み合わせることにより、メリハリのある研修を提供するよう努めている。

一例として、表1には、2011年8月に実施した「スクールリーダー育成のための基礎講座（以下、「基礎講座」）」（20日～22日）ならびに「学校教育研究フェスタ（以下、「フェスタ」）」（21日）の内容を示している。

表1. E. FORUMの研修内容と講師（2011年8月）

※講師の所属は、明記しているもの以外は京都大学大学院教育学研究科である。

- 講演「教育を『江戸』から考える」：辻本雅史教授
- 講義「批判的思考力の育成と評価」：楠見孝教授
- ワークショップ「校内研修の活性化：PBL（問題基盤型学習）の手法」：吉田正純助教
- ワークショップ「カリキュラム設計」：西岡加名恵准教授
- シンポジウム「活用すべき基礎・基本とは何か？：各教科等のスタンダードを探る」：鋒山泰弘教授（追手門学院大学）、中池竜一助教、西岡加名恵准教授、石井英真講師（神戸松蔭女子学院大学）、八田幸恵講師（福井大学）、赤沢真世准教授（立命館大学）
- 演習「カリキュラム設計データベース（CDDDB）の活用」：中池竜一助教、松井保樹講師（京都産業大学附属中・高等学校）、西岡加名恵准教授



▶講演「教育を『江戸』から考える」：辻本雅史教授

一見してわかるように、E. FORUMで提供している研修内容は、京都大学大学院教育学研究科の特徴を生かし、教育史学、認知心理学、生涯教育学、教育方法学など、豊かな学問成果を踏まえたものとなっている。

ある参加者は、「E. FORUMの魅力は、学校現場を少し離れてみることによって本質を考えさせてくださるような内容と、明日からの実践にすぐに役立つ内容とが、バランスよく組み合わせられて提供されている点にある」との声を寄せてくださっている。

またE. FORUMの研修では、研修内容を学校現場で活用していただくことを促進するために、ワークショップを多く取り入れるとともに、「研修—学校現場での実践—研修—」と反復する構造を採用している。2009年度までには、8月の前期集中研修（3日間）と12月の後期集中研修（1～2日間）を1組の「基礎講座」として提供した。つまり、前期集中研修で提供した研修内容を活かして、フィールドで実践に取り組んでいただき、後期集中研修では実践の成果や課題を持ち寄っていただいて、さらに研修内容を深める、という設計にしたのである。さらに、8月に行う研修のうちの一日を「フェスタ」と名付け、前年度までの参加者と、その年度の新しい参加者が、ともに参加し、交流できる場とした。しかしながら実際には、リピーター（複数年度の参加者）の多くが「基礎講座」全体に参加してくださっている。

2011年8月の研修には、東は北海道から西は佐賀まで、1都1道2府17県から84名の参加があり、うち45名（全参加者の53%）がリピーターであった。リピーターの多さは、E. FORUMの研修が参加者から高い評価を得ていることを端的に示しているものと言えるだろう。研修評価アンケートにおいても、本研修について「とても価値がある」と回答された参加者が56名



▶ワークショップ「校内研修の活性化：PBL（問題基盤型学習）の手法」：吉田正純助教

(アンケート回答者の77%)、「価値がある」という回答を含め肯定的な評価をしてくださった参加者は73名(アンケート回答者の100%)に上っている。

## 2. 参加者の交流と、継続的な研究開発を促す取り組み

E. FORUMは、大学から研修を提供するだけでなく、参加者間に交流を促し、そこから新たな知見を生み出すことをもめざしている。

E. FORUMには、教育委員会の指導主事、校長など管理職、研修主任・研究主任や指導教諭から、初任の教員や大学院生まで幅広い参加があり、校種や地域も様々である。参加者からは、「研修の参加者に幅があり、多様な考え方に接することができる。自由な雰囲気でものが考えられる」、「参加者すべてが受容されるという雰囲気があること [が良い]」といった声が寄せられている。特にリピーターの方々は、グループ活動を行う際に周りの参加者への支援も提供して下さる「サポーター」であり、研修の効果を高める上で大きな役割を担ってくださっている。

毎年3月に行っている実践交流会は、2006年8月の研修参加者から、「折角これだけのメンバーが集まっているのだから、もっと参加者同士で交流したい」という声が寄せられたことを受けて始まった。2007年3月の第1回の参加者が12名であったのに対し、2011年3月に行った第6回には39名の参加者を数えるに至っている。



▶「第6回実践交流会」における分科会での様子

E. FORUMで形成されているネットワークを基盤として、共同研究開発プロジェクトも始まっている。2010年8月・2011年8月の「フェスタ」におけるシンポジウムは、共同研究プロジェクト「スタンダード作り」(通称「プロジェクトS」)の一環として位置づいている。スタンダードとは、社会的に共通理解された目標＝評価基準を意味している。「プロジェクトS」では、各教科において活用されるべき基礎・基本(重点目標)とは何かを探り、包括的な「本質的な問い」・「永続的理解」について議論していくとともに、学校を超えて用いることのできるパフォーマンス課題やルーブリック、さらには単元・学年を超えた発達を捉える長期的ルーブリックを開発することをめざしている。

さらに、教師教育も、E. FORUMにおける議論の一つの柱として位置づき始めている。2010年3月の実践交流会では、「効果的な教員研修の進め方」をテーマに、京都大学の大学院生と学校現場における実践家が登壇するシンポジウムを行った。また2010年度以降の新たな試みとして、教師をめざす京都大学の学生た



▶「フェスタ」におけるシンポジウムの様子

ちと、学校現場の先生方がともに参加できる講演会を企画している。2010年7月には「教えて考えさせる授業」で楠木良夫先生に、また2011年12月には南アフリカ共和国のテンビ・ンデラーネ先生にご講演いただいた。E. FORUMの参加者の多くは、現場における教師教育に携わっておられる。そのような先生方と、教員養成を担う京都大学の教員との間で、今後、教師教育についても新たな連携が生み出されていくことが期待される。

## 3. 会員制度と「カリキュラム設計データベース(CDDDB)」

研修の成果を蓄積し、ネットワークとしての継続性を創出するため、E. FORUMでは会則を定めて会員制を採るとともに、「カリキュラム設計データベース(CDDDB)」を開設している。CDDDBは、大きく分けて、データベース部分と掲示板部分(「交流広場」)から構成されている(図1)。

データベース部分には、研修で参加者が作成した単元指導計画など、各種の実践資料が蓄積されている。また、「交流広場」と名付けられている掲示板はメール送信機能も備えており、研修の案内に用いられるほか、参加者同士、あるいは参加者と講師の間の日常的な交流にも役立っている。2012年1月3日現在、CDDDBに登録されている会員は423名、単元360件(うち公開237件)、評価方法373件(うち公開250件)、ルーブリック274件(うち公開167件)、作品305件(うち公開302)となっている。



図1. CDDDBの検索画面

E. FORUMの会則には、「本会は、広く教育に関心を持っている人々が集まり、教育をめぐる事柄について共に語り合うことによって、お互いの教育力量を向上させることを目的としています。本会は、学ぶ喜びを感じ、賢明に判断し行動できる子どもたちの育成に役立つことを目指します」と定めている。この目的の実現に、今後も尽力していきたい。

(文責：西岡加名恵)